

# 知識活用革新の要件

知識は生きている。日々、成長する。  
 社会と深い関わりを持ち、社会変化を促す。  
 知識を持つ者は個人である。個人が資源を手にした。

① ≪知識結合≫ 他に影響出来る知識群を明らかにする。他から影響を受ける知識群を明らかにする。

② 知識と関連する直接業務を示す。

③ 知識が活用できる可能性のある業務を出来る限り取り出す。

④ 知識活用は、市場で現す成果からスタートする。

⑤ 知識は、技術を確かなモノにする。技術からスタートした技術は、新たな知識を体系化する。

⑩ 変化を知覚する知識は自らの如何なる知識かを確認する。自らの視点の範囲を確認する。

⑪ 自らの知識を持って、業務にアプローチする思考方法を探る。

⑫ 自らの思考位置を確認する。考える位置と方向で、知識活用の性質が変化する。成果に正と負に分かれる。

⑥ 行動を明確に示す目的を設定する。

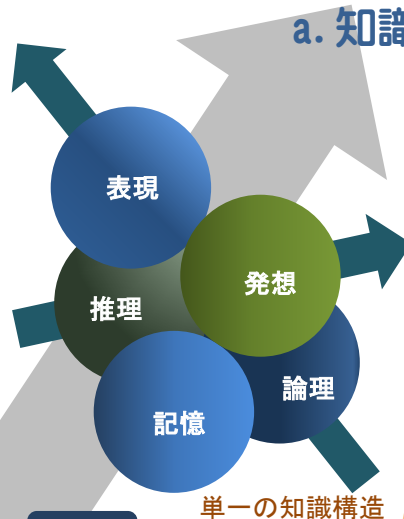
- ・個人の目的
- ・業務の目的

a. 知識資源化を図る。

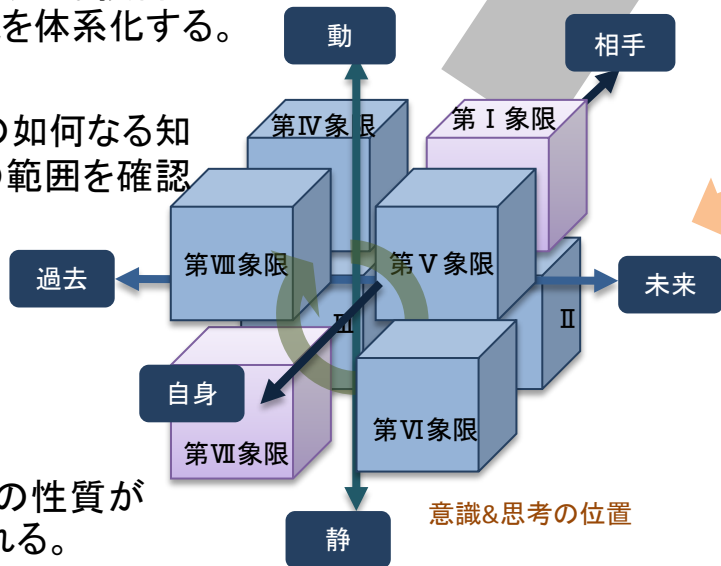
⑦ 自らの知識群を明らかにする。

⑧ 仲間たちの知識群をすべて列記しよう。

⑨ 自らの知識活用の実態を探れ。時間の使い方を確認する。



b. 意味ある知識を探そう。



知識は社会の公的資源である。  
 ・知識は、何よりも速く移動、拡散する。  
 ・知識は、万人が生産手段として、教育が受けられる。  
 ・知識が、社会の役割を設定し、役割移動が激しくなる。  
 ・知識を武器にして、高度な競争社会になる。